

平成二十九年一月二十四日から二十五日に実施した調査視察の概要を報告します。

《北海道函館市》

子育て支援コンシェルジュ事業について

函館市は平成十六年に一市三町一村が合併しましたが、町内会加入率が旧町村部でほぼ100%であるのに対し、旧函館市地域は約60%でした。少子核家族化が進行する中で地域の結びつきが希薄化し孤立しがちな子育て世帯のニーズに適切に対応するとともに心の負担解消を図るため、駅前地区の複合ビルに子育て支援に関するワンストップサービスの総合窓口を開設しました。

も各種制度等に関する研修を実施したとのこと。土日・祝日も開設することで保護者も利用しやすく、施設内に子供の遊び場を設けるなど、長期的・総合的な少子化対策につながるものと感じました。



函館市議会にて

主な業務は、子ども・子育て支援サービスに係る情報提供や利用に係る連絡調整、子育てに関する相談対応、広報・啓発活動を行っています。また、コンシェルジュとして保育所での園長経験がある専任者一名、保育士有資格者の業務補助者二名を配置しており、市で

《北海道北斗市》
ほくと療育カルテについて

北斗市では、自閉症等の障害を抱える子供の保護者からの「成長過程で同じことを何度も説明し

なくてはいけないのか」という意見が寄せられ医師や保健師等が調査研究し、成長や発達へのより良い支援に活用することや公的な制度としてサポートすることにより療育・教育・医療等の支援を一貫・連続して行うことを目的に療育カルテを作成していました。このカルテは、五枚の基本シート(生育・医療・教育・療育・社会生活)からなり、その時々での支援、教育に携わる専門家と家族が記載できるものです。効果として、子供の情報を一元化して共有することで関係機関との連携がしやすくなったことやライフステージごとの情報の引き継ぎという本来の目的が効率的に行えるようになったとのこと。障害者に対する切れ目のない支援を適切に実施していくためのツールとして重要なものだと感じました。

常任委員会 所管事務調査報告

各常任委員会にて実施した所管事務調査の内容についてお知らせします。

総務文教常任委員会

「今後の財政運営の見通しについて」

- ・今後の財政運営の見通しとして、一般財源の推移と公債費(市債の元利償還額)の見込みを仮試算した。
 - ・一般財源の総額が減となるが、財政調整基金や合併特別債等により、新庁舎建設や三本木中学校建設等への多額な市債発行が財政運営に与える影響は小さいと想定される。
- ⇒想定していたほど状況は厳しくないが、引き続き効果的、効率的な行政運営、財政運営に努めてほしい。

民生福祉常任委員会

「元気な十和田市づくり市民活動支援事業の実施状況について」

- ・平成23～28年度までに91団体、延べ事業数144件に対し、75,421千円を補助した。
 - ・市民活動を通じ、元気な十和田市の発信につながっている。
 - ・法人格を取得する等の市民団体の自立、発展が実現した。
- ⇒市民力を生かした公益的な活動として高く評価できるため、今後とも鋭意取り組んでほしい。

観光経済常任委員会

「十和田湖和牛ブランド化の推進について」

- ・現状は年間約250頭取り扱われるが、市内では4～5頭しか消費されていない。
 - ・市内ホテルや精肉店への流通、ふるさと納税返礼品として常時提供するためには、1カ月に2～3頭確保が必要。
- ⇒飼育頭数を確保し安定供給するためには生産農家の維持、拡大が不可欠なので、市の補助金も検討する必要がある。

建設常任委員会

「保全地区、公園等の樹木の管理について」

- ・専門家による診断の結果、平成28年度は保全地区4カ所、公園2カ所の危険木計30本の伐採を決定した。
 - ・今後は5年に1回程度の大規模な調査診断で管理し、伐採した樹木は樹種替えや補植をする。
- ⇒今回伐採した以外にも密集していたり、危険木のおそれがあるものは早急に処理してほしい。